

命同等 ガザ停戦を

宗教者ら訴え

パレスチナ・ガザ地区での戦闘により多くの市民が犠牲になる中、「平和をつくり出す宗教者ネット」など4団体の呼びかけで集まった市民らが28日、東京・渋谷駅前で宣伝行動しました。参加者は「戦争の即時中止を」「子どもを殺すな」などコールしアピールしました。

京都市から娘と参加した京都宗教者平和協議会の出口玲子さん(79)は、パレスチナ人イスラエル人とどちらの命も同等だとし、「命を大事にしたい。話し合いによる平和な解決を願っている」と話しました。同協議会がイスラエル大使館へ送った即時・恒久停戦を求める声明文を読み上げました。



「武力で平和はつくれぬ」と訴える宗教者や市民たち＝28日、東京都渋谷区

カトリック教の「イエズス会社会司牧センター」の柳川朋毅(と

もき)さんは、世界中にさまざまな対立があるが、どちらかの味方をするのではなく殺人や破壊に抗議し続けると強調。「これ以上『武器を作る』『血を流すな』、粘り強く戦争がやむまで声をあげていく。ともに命、平和への道を歩み続けましょう」と呼びかけました。